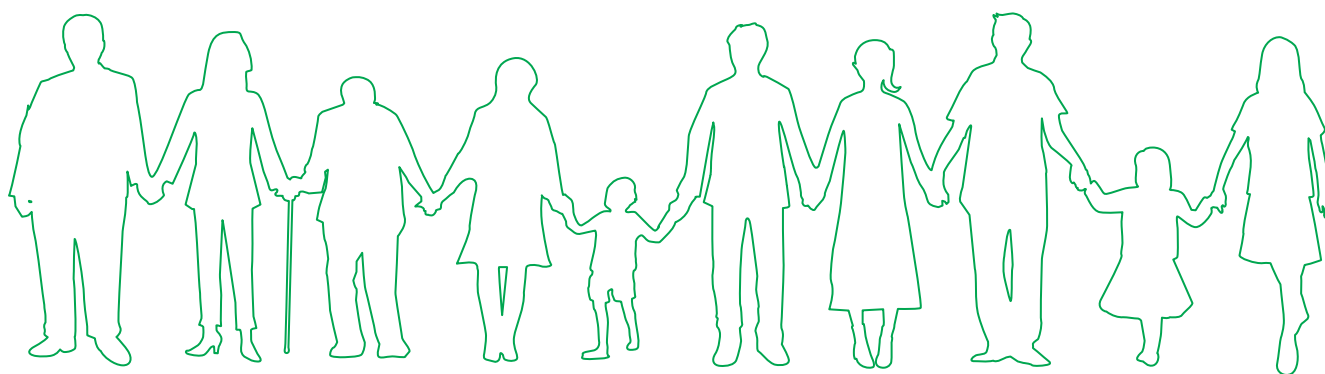


全労済 2013年 社会貢献活動レポート



ごあいさつ

組合員の皆さまに、この一年間の全労済の社会貢献活動へのご理解とご協力・ご支援を賜りましたことを心より深く感謝申し上げます。

唐突ではありますが、「一寸先は光」という言葉をご存知でしょうか。この言葉は「読み聞かせリレープロジェクト」にご協力をいただいた、アンパンマンの作者で知られるやなせたかしさんの言葉です。「一人が全員を助けることは無理でも、一人が10人を助けることができれば大勢の人々が助かる。目の前にいる人を喜ばせよう」と、やなせさんは「一寸先は光」という言葉に思いを込めておられます。まさに、全労済の社会貢献活動の原点と言える言葉としてご紹介いたします。

さて、2012年度の全労済の社会貢献活動は、「防災・減災」「環境保全」「子どもの健全育成」の3つの重点分野を基軸とした従来の取り組みをすすめると同時に、「東日本大震災を風化させない取り組み」と位置づけたさまざまな活動に力を注ぎました。

例えば、地域の防災を担う消防団などの組織を被災地に訪ね、震災を受けての取り組みをヒアリングするプロジェクト、やなせたかしさんの絵本をタペストリーにして被災地の保育園等で実施した「読み聞かせ会」や「きずな公演」の開催、災害や防災のしくみを体験しながら学べる「ぼうさいカフェ」の実施、被災地の森林整備等への支援がそれにあたります。しかし、どれひとつとして私たちだけではできない活動ばかりでした。改めて、ご協力いただきました組合員・協力団体・NPO法人等、皆さまへ厚く御礼申し上げます。

全労済では、今後も3つの重点分野を中心とし、東日本大震災からの一日も早い復興を祈念しながら、社会貢献活動に取り組み、理念である「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」の実現に向けて努力して参ります。

皆さまの引き続きの全労済へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

2013年7月

全国労働者共済生活協同組合連合会
理事長

田原 憲次郎

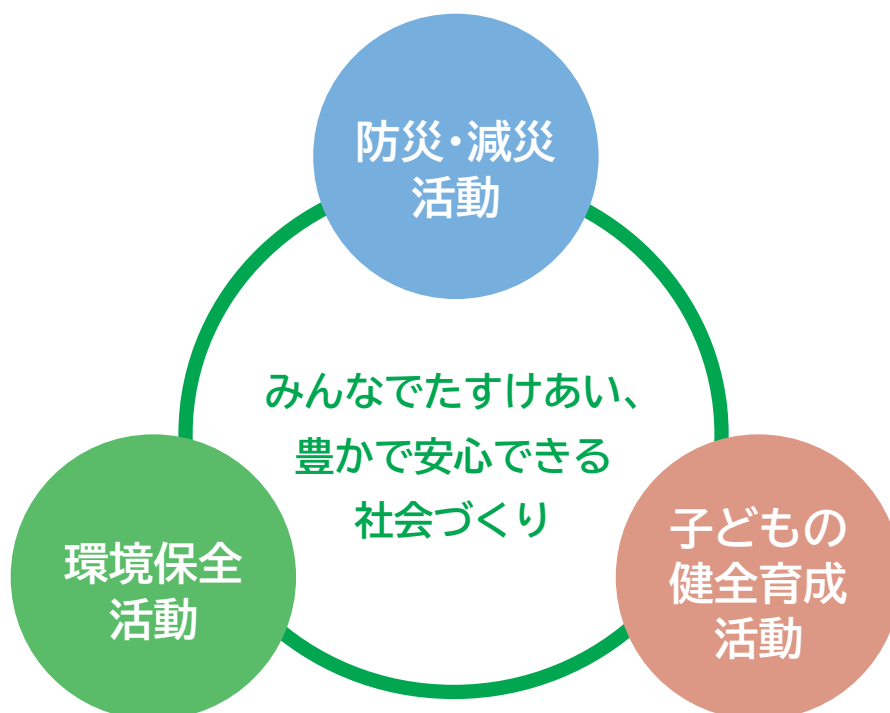


全労済の社会貢献活動

全労済の理念は、「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」です。

私たちは、この理念に描く社会の実現のため、『防災・減災活動』『環境保全活動』『子どもの健全育成活動』の、3つの重点分野を中心に、社会貢献活動に取り組んでいます。

私たちは、防災・減災知識の習得と訓練を
すすめることで、地域の防災意識を高め、
安心できる社会づくりの構築を目指します。



私たちは、省エネルギー・緑化活動等に積極的に取り組み、豊かな自然環境や生物を守り、次世代に引き継いでいくことを目指します。

私たちは、未来を担う子どもたちの健全な成長を願い、学習支援等、地域の“きずな”を大切にしたい子育て支援をすすめます。

目次

ごあいさつ …1

全労済の社会貢献活動／目次 …2

■ 活動ハイライト 2012 東日本大震災を風化させない取り組み

No.1 被災地の消防団・防災組織が語るプロジェクト …3

No.2 読み聞かせリレープロジェクト …5

環境保全活動 …9

防災・減災活動 …11

子どもの健全育成・次世代育成活動 …12

地域・文化支援などその他の活動 …13

■ 全労済地域貢献助成事業

全労済地域貢献助成事業 …15

2013年 全労済地域貢献助成事業 助成団体一覧 …17

2012年 助成団体インタビュー …19

2012年 助成団体の紹介 …21

全国の事業所での活動 …23

全労済グループの取り組み …25

全労済 関連事業会社の取り組み …26



活動ハイライト
2012
No.1

2012年全労済地域貢献助成事業 「東日本大震災 復興支援特別枠」 助成団体一覧

宮古21防災会
釜石市大渡町自主防災会
地ノ森住宅自治会 自主防災組織
長部地区自主防災会本部
山元町消防団
岩沼市消防団
女川町消防団
東松島市消防団
南三陸町消防団
気仙沼市消防団
伊達東仮設住宅飯館自治会
南相馬緊急防犯パトロール隊
浪江町仮設住宅自治会
楢葉町仮設住宅連絡員会
千葉県旭市



東日本大震災を風化させない取り組み

被災地の消防団・ 防災組織が語るプロジェクト

趣旨

東日本大震災から1年半余りが経過した2012年の10月、私たちは、被災地の中でも最も甚大な被害があった沿岸部に、地域の防災を担う消防団などの防災組織を訪ねました。これらの組織は、全労済地域貢献助成事業の「東日本大震災復興支援特別枠」で助成対象とした団体でもあります。震災直後の活動から復興に向けた取り組みまで、彼らの経験を個別にヒアリングし、まとめる作業を行ってきました。多くの犠牲を出しながら得た学びをしっかりと受け止め、防災・減災に活かしていきたい。私たちはその思いで、広く情報共有を図っています。

被災3県、沿岸部の団体を訪ねる

まるで最初から何もなかったような景色が続く海岸沿い。基礎だけ残して姿を消した家々。地元の人が、「津波があの上まできた」と指差す先を見上げると、誰もがあの日、「まさか」と感じたことを、納得せずにはいられていませんでした。一瞬の判断が生死を分けた現場で、地域の人々のために奔走し続けた消防団をはじめとする防災組織。最も印象的だったのは、地域で定期的に行われてきた防災訓練が、あの未曾有の震災時にも機能していた点です。これについては、多くの団体で共通して語られた



ことで、“釜石の奇跡”として知られる、大津波を生き延びた小学生のエピソードに象徴されます。釜石市大渡町自主防災会(岩手県)の会長を務める荻野さんは、「訓練を一回でも経験すれば、いざというときも、とっさに体が動く。どこが安全かわかるんです」と語りました。宮城県岩沼市では、海から200mの場所に位置する老人ホームで、寝たきりを含めた100名の入居者と40名の職員全員が助かっています。職員のとっさの判断で、より安全な所に避難場所を変更して難を逃れたと言います。やはり、日ごろから訓練が行われていました。一方で、多くの消防団などのメンバーが、その使命感から避難誘導中に命を落としています。20~30mの巨大津波が押し寄せた南三陸町(宮城県)の消防団では、震災当日の夜は団員を派遣しない苦渋の選択をしたそうです。

生き延びた、その先を見据えて

取材で訪ねた中でも、仮設住宅に拠点を置き、活動を続ける団体が複数ありました。そのひとつ、伊達東仮設住宅飯館自治会(福島県)は、まだ十分に住むことのできる住居を後に、避難してきた原発被災者の皆さんが暮らしています。避難生活の精神面での難しさが口々に語られ、先が見えないことへの苦悩が滲んでいました。災害大国である日本では、誰もが被災者になる可能性を持っています。東日本大震災後も、肉体的、精神的疲労を原因にした、震災関連死の痛ましい事例が数多く報じられています。特に高齢者にとっては厳しい避難生活をどう乗り切るかもまた、私たちの大きな課題です。

全労済では、取材をもとにまとめた消防団・防災組織の声を、報告書やWebサイトを通して発信しています。



● Web版



<http://www.zenrosai.coop/shinsaikatatu/>



震災後、人手はいくらあっても足りない状況だった
(宮城県亶理郡 山元町消防団)

つながりが地域を守る

震災発生時の避難の際はもちろん、インフラや道路の寸断で過酷な避難生活を余儀なくされた状況でも、被災者を守ったのは地域のつながりでした。岩手県陸前高田市の長部地区自主防災会本部では、地域が陸の孤島に陥った1週間、各家庭からガスボンベや米を集めて乗り切ったと聞きました。すべての団体で共通して語られていたのが、地域への愛着が消防団などの防災活動を支えていることです。女川町消防団(宮城県)のように、地域への思いから、震災後に新たな団員が加わった団体もあります。しかし、少子高齢化や、若い層を中心としたライフスタイルの変化から生じる後継者不足を危惧する団体は多く、日本の抱える大きな課題が、防災・減災に取り組む現場にも、共通して見えてきました。

担当者の声

2012年10月に、被災地の消防団等への取材を行いました。取材を通して、消防団などの皆さまのご経験や課題などを、実際にお会いしてうかがうことができ、大変貴重な機会となりました。また、取材でお会いした皆さまのエネルギーによって、私たちの方が元気を与えていただきました。今回うかがったお話の内容を、一人でも多くの方々に伝えていきたいと思っています。



全労済 総務部
社会貢献推進課 主任
長倉博志





『やなせたかしのメルヘン絵本』を、読み聞かせ会を実施した施設に寄贈しています



東日本大震災を風化させない取り組み

読み聞かせリレープロジェクト

開催地	参加者数(延べ)
岩手県	835人
宮城県	755人
福島県	642人
東京都	319人
合計	2,551人

趣旨

読み聞かせリレープロジェクトは、東日本大震災の被災地や避難者の子どもたちの心のケアと健全育成を目的に、2012年11月より岩手県、宮城県、福島県、東京都で行ったプロジェクトです。アンパンマンの作者、やなせたかし氏の著作『やなせたかしのメルヘン絵本』をタペストリーにして読み聞かせを行うもので、36カ所の保育園等を巡り、延べ2,551名の子どもたちを対象に実施したほか、コミュニティFMでの放送、複合イベントの開催も行いました。(写真左から稲垣美穂子氏、やなせたかし氏、当会理事長の田原)

絵本の世界を子どもたちに

「パンジーとチンパンジー」「老眼のおたまじゃくし」「新花咲かじいさん」……。題名だけで想像力をかきたてられる作品の数々がつまった『やなせたかしのメルヘン絵本』。個性豊かで魅力的なキャラクターと、多彩なストーリーは、子どものみならず大人までも引き込まれます。作品の中には、やなせ氏自身が東日本大震災の後、

陸前高田に1本だけ残った“奇跡の一本松”の姿に自分自身を重ね、創作したものもあります。全労済の読み聞かせリレープロジェクトは、震災を体験し、その後の生活にも変化を余儀なくされた子どもたちが、ひとときの間絵本の世界に浸り、夢中になってくれたらと願い、行ったものです。趣旨に賛同した、女優で劇団目覚時計を主



タペストリー絵本の前で行う読み聞かせ会

宰する稲垣美穂子氏のほか、地元 FM のパーソナリティの方、読み聞かせボランティアの皆さんなどが読み手となり、岩手県、宮城県、福島県、東京都の保育園等で行いました。

やなせ氏がこのためにオリジナルで創案したタペストリーは、メルヘン絵本の世界をより鮮やかに演出し、タペストリーの前で行う読み聞かせ会は、子どもたちの心をとらえたようです。ほとんどの子どもたちが集中して聞き入ってくれました。オリジナルのタペストリーは、これからも保育園等に貸し出しを行って、読み聞かせの輪を広げていきます。

「きずな公演」を開催

読み聞かせリレープロジェクトのゴールとして、2013年3月16日に東京都江東区にある豊洲文化センターにおいて、「きずな公演」を開催しました。被災地から避難している子どもたちと、東京都内の子どもたちに、稲垣氏の読み聞かせを披露。そのほか、劇団目覚時計によるミュージカルのステージや、バルーンアート



稲垣氏率いる劇団目覚時計のステージ



国土緑化推進機構による「森の教室」

のパフォーマンス、国土緑化推進機構による「森の教室～どんぐりくんと森の仲間たち」など、バラエティに富んだプログラムをお届けしました。公演の冒頭に流した、やなせ氏による、自作の歌を交えたビデオメッセージに、また、やなせ氏にご提供いただいた、こちらも自作の歌詞がプリントされたかわいらしいハンカチ「希望のハンカチ」のうれしいプレゼントに、子どもたちの笑顔がはじけていました。会場には、『やなせたかしのメルヘン絵本』のオリジナルタペストリーを展示。順番に見入る親子の姿も見られました。午前、午後と行ったこの公演のうち、特に午後の公演には多くの家族連れが来場し、「希望のハンカチ」を振りながら元気に歌い飛び跳ねる子どもたちのエネルギーが、会場に満ちていました。素晴らしいパフォーマンスを披露してくれた皆さんのお陰で、まだ小さな子どもたちにも、飽きずに楽しむでもらうことができました。

当公演が、子どもたちの良き思い出の一日となったことを、心より願っています。そして、多くの人が大切なものを失ったあの震災が、風化することなく刻まれ、いま一度きずなを考えるきっかけとなりますよう願っています。

日本赤十字社による救急法の講習

「きずな公演」当日、公演会場の別室では日本赤十字社による救急法(災害時に子どもを守る体験コーナー)の講習が行われ、親子で一緒に、AEDを用いた心肺蘇生を体験しました。万一のとき誰かの命を守るために学ぶ表情は真剣でした。



日本赤十字社

わたしたちは日本赤十字社の活動を支援しています。





「きずな公演」に来場されたご家族の声

被災地から避難してきている方の多い、江東区東雲に住んでいます。2年目の3月11日に、マスコミが近隣に取材に来ているのを見て、改めて、皆さんが避難生活を送っていらっしゃることを実感しました。

こちらに越してから、環境がガラリと変わり、そうでなくても大変な皆さんのストレスが心配です。子どもをお持ちのご家庭は、幼稚園や学校が変わるだけでも大変なのではないかと思います。これ以上のご苦労がないよう願っています。

大槻さん
ファミリー
(東京都)



私たちは夫婦ともに宮城県出身で、東日本大震災の半年ほど前に偶然、仙台から転勤で東京に来ました。あの震災では、みんなを助けようと奔走し、命を落とした知人もいて、自分たちだけが何事もなく安全だったことに罪悪感を感じました。今も、帰省の際に海沿いを通ると、胸がいっぱいになります。

子どもは今日のイベントを、飽きずにずっと楽しんでいました。まだ物事がわかる年齢ではありませんが、知人のように、みんなのために必死で頑張った人がいたことをこの先も伝え続けるのが、自分たちのせめてもの役割だと思っています。

宗さん
ファミリー
(東京都)



担当者の声



私自身も陸前高田市の保育園で読み聞かせを行いました。津波で保育園を流されてしまった子どもたちですが、とても楽しそうにお話を聞いてくれました。読み聞かせ会の最後に「手のひらを太陽に」を一緒に歌いながら、つらい経験を感じさせない元気いっぱいな様子に、この子どもたちがより楽しく元気に育っていけるようこれからも継続して支援していきたいと強く感じました。

全労済 総務部 社会貢献推進課 主任 加藤 麻実子





やなせたかし先生からのメッセージ

『やなせたかしのメルヘン絵本』は、アンパンマンと並ぶ私の代表作で、自信作です。一つひとつの物語を生み出すのに苦労しただけに、作者としても思い入れが強い作品です。全労済さんの活動を通して、どこにでも簡単に運べるタペストリーになり、読み聞かせ会で使われるようになりました。東北の被災地の子どもたちにも物語を届けることができて、みんなが喜んでいて聞き、私も大変うれしいです。



やなせ
たかし
先生

プロジェクトパートナーの声

女優 / 劇団目覚時計 主宰 / NPO法人 青少年の心を育てる会 副会長
稲垣美穂子さん

全労済さんとのおつき合いは長く、1990年に起きた、雲仙・普賢岳の火山災害の際に行ったチャリティー公演以来、幾たびか社会貢献活動をご一緒しています。

今回の「読み聞かせリレープロジェクト」では、私も東北の被災地に足を運び、保育園で読み聞かせを行いました。『やなせたかしのメルヘン絵本』は魔法のような作品で、なんでもないようなお話なのに、また、やなせ先生自身も、それを意図してはいないであろうにもかかわらず、読むほどに深く、おだやかでやさしい独特の世界が広がります。私も、読むことで肩の力が抜けてほっとする、不思議な体験を何度もしています。この世界観は、子どもたちにもきっと伝わっていると思います。

東日本大震災のような大災害を前にして、何かしたい、するべきだと思う一方で、本当にあの場所に行ってもいいのだろうか、私のやり方は合っているのだろうかという葛藤があり、少し足踏みしていたところ、これまで何度かそうであったように、全労済さんが道筋をつけてくれました。

被災地では、被災者の皆さんに、逆に教えてもらったり、勇気をもらったりが多かったのですが、私なりのやり方で、これからも寄り添うことができたならうれしいです。



稲垣
美穂子
さん



環境保全活動

趣旨



地球温暖化、天然資源の枯渇、異常気象など地球規模の環境問題は深刻さを増しています。全労済では、環境問題への対応は、今やすべての企業、個人が自身の問題として取り組むべき課題であるとの認識に立ち、「社会貢献付エコ住宅専用火災共済」等の推進を通じて組合員のたすけあいの輪を広げる一方、環境保全団体への助成事業により、積極的に環境保全に取り組んでいます。

環境活動への取り組み

2000年12月に全労済会館でISO14001の認証を取得して以来、全国的には『Z-EMS=ゼムス』の名称で「全労済環境方針」のもと、さまざまな環境活動に取り組んで参りました。環境配慮型の商品やサービスの創出等を含め、「Z-EMSの継続」は、環境保全活動の運用・維持管理が確実になされていることの証として、不可欠なものと考えております。



RB-E06006

2012年度における環境活動の主な取り組みとその成果を報告します。

1 全労済会館における 環境負荷低減の取り組みについて

- ① 会館改装工事による産業廃棄物と事業系一般廃棄物の対前年度比2.8%の減量化
- ② BEMS(ビルディング・エネルギー・マネジメントシステム)の導入、熱源機器のDHC(地域冷暖房)化への移行と効率運用による対前年度比3.9%の総エネルギー使用量節減

3 役職員のオフィスにおける 環境活動について

- ① ペーパーレス化の促進とコピー紙の使用量削減(対前年度比2.1%の削減)
※上記は、東日本大震災等による災害対策関連での使用分を除く。災害対策関連を含めた場合、対前年度比18.7%の増加。
- ② 電気・OA機器、照明等の電力使用量削減(対前年度比5.9%の削減)
※東日本大震災等による夏期節電対応での削減分を含む。
- ③ グリーン購入・グリーン調達の励行(購入・調達率は金額ベースで98.5%以上)
- ④ 廃棄物の分別管理とリサイクルの徹底(再資源化率は対前年度比1.2ポイント増加)

2 事業活動分野における 環境保全活動について

- ① 「社会貢献付エコ住宅専用火災共済」の加入促進強化
- ② 自然環境保全団体等への助成事業の継続実施
- ③ 環境先進企業・地方自治体への資金運用の拡大
- ④ 自動車のリサイクルパーツの利用促進
- ⑤ 介護・福祉用具のリサイクル利用促進

4 役職員の社会・日常生活活動における 取り組み

- ① 家庭から出るCO₂排出量の削減へ向けた取り組み
- ② エコバッグの利用、環境対応型家電製品の購入等の促進
- ③ 植樹など環境ボランティアへの積極的参加



全労済ロゴ入りエコバッグ



仙台市若林区の海岸林の植樹

災害から組合員の「いのち」と「くらし」を守る保障の生協として、自らの事業活動に影響を与える紙・電力等の資源の使用節減と地球温暖化防止に向けた取り組みは、循環型社会の形成に向けて、より一層の改善努力が必要と考えます。今後とも、環境保全活動を通じて、役職員一人ひとりの「意識」と「自覚」が全労済の事業活動に波及すること、ひいては社会全体で行動を起こすための大きな一歩につながることを目指し、役職員一丸となって、積極的に取り組んでいきます。

本業を通じての取り組み ～社会貢献付エコ住宅専用火災共済

社会貢献付エコ住宅専用火災共済から『公益社団法人 国土緑化推進機構「緑の募金」使途限定募金～東日本大震災復興事業』に1,100万円を寄付しました。この「緑の募金」では、東日本大震災で大きな被害を受けた地域の防災林の森林整備等の被災地域復興事業が実施されます。社会貢献付エコ住宅専用火災共済は社会に役立つ生協の共済商品として、2008年1月から取り組みを開始しています。住まいの保障とともに地球環境への貢献につながるという特長を組合員の皆さまに共感いただき、環境意識の高まりとともに、契約件数が年々増加しています。



国土緑化推進機構 谷福丸副理事長に目録贈呈



寄付先団体:公益社団法人 国土緑化推進機構 「緑の募金」について

国土緑化推進機構および都道府県緑化推進委員会は、2011年4月より開始した東日本大震災被災地域の復旧・復興に向けた使途限定の「緑の募金」で集まった募金を活用し、被災地域において海岸防災林等の森林整備、地域や学校周辺の緑化等の復興事業をすすめています。

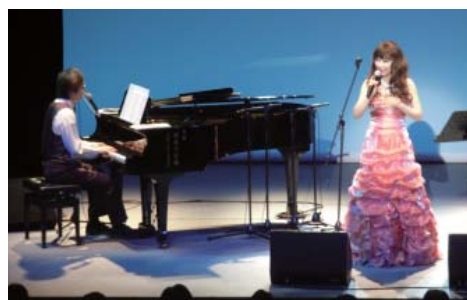
■ Web サイト <http://www.green.or.jp/>



国土緑化推進機構の活動風景

被災地における緑化を応援 ～東日本大震災復興支援チャリティー「きずなりレーコンサート」

2013年3月4日に、全労済ホール／スペース・ゼロで開催された「きずなりレーコンサート」(主催:公益社団法人 国土緑化推進機構)に協賛しました。400名近くの方々にお集まりいただき、MCの坂内愛さんの司会で幕を開け、雨谷麻世さんが心に響くソプラノの歌声、上妻宏光さんが力強い津軽三味線の演奏を披露。コンサートの最後には、被災地の復興を祈り、「見上げてごらん夜の星を」が演奏されました。また、全労済が震災を風化させない取り組みの一環で実施する『やなせたかしのメルヘン絵本』読み聞かせリレープロジェクトで使用しているタペストリーを展示しました。



金井信さんのピアノ伴奏で歌う雨谷麻世さん



担当者の声

国土緑化推進機構「緑の募金」へは、昨年から継続して寄付を行いました。被災地への植樹や学校周辺の緑化、チャリティーコンサートの開催等、私たちだけでは実施できない、さまざまな活動に役立てていただき大変感謝しております。社会貢献付エコ住宅専用火災共済は、今後も、社会に役立つ生協の共済商品として、社会にも組合員の皆さまにもやさしい共済商品を目指していきます。

全労済 総務部 次長 斎藤 工



防災・減災活動

趣旨



災害の多い日本において、防災・減災は、安心できる社会づくりのための欠かせないテーマです。全労済では、家族で災害のしくみ等を楽しく学べる「ぼうさいカフェ」の開催や、Webサイトで簡単に防災・減災に関する個々の現状の再確認ができる「防災点検アンケート」等を通じて、起きる前に「そなえ」、万一のときに「まもる」、地域の防災意識向上を後押しする取り組みを行っています。

全労済の「ぼうさいカフェ」

「ぼうさいカフェ」は、内閣府が国民の防災意識を高めてもらうため、出前講座として推進しているものです。地震や台風などの自然災害に対して、誰でもちょっとした心がけで自分の身を守り、災害の被害を小さくすることができます。全労済では、「楽しく分かりやすく」をモットーに、非常食の試食や、専門家などによる講演会、防災科学実験ショー、防災ゲーム等、さまざまなイベントを組み合わせて開催し、家族一緒に楽しく学べる場を提供しています。

分かりやすい言葉 → 誰もが参加可能

講師と直接対話 → 身近なふれあい

気軽に参加 → 日常の延長

防災についての実演を行いながら、正しい知識を分かりやすく提供します

開催報告（2012年6月1日～2013年5月31日）

「災害を理解し、災害を学ぶ」というテーマを設定し、防災グッズの展示や公演・実験を交えながら、防災・減災への対応としてのイベントを開催しました。

ぼうさいカフェ in 札幌(北海道)	ぼうさいカフェ in 岩手	ぼうさいカフェ in 新宿西口Ⅰ(東京)
ぼうさいカフェ in 八戸(青森)	ぼうさいカフェ in 福島	ぼうさいカフェ in 新宿西口Ⅱ(東京)
ぼうさいカフェ in 大仙(秋田)	ぼうさいカフェ in 栃木	ぼうさいカフェ in 住之江公園(大阪)
ぼうさいカフェ in 米沢(山形)	ぼうさいカフェ in 石川	ぼうさいカフェ in サンポートホール高松2012(香川)
ぼうさいカフェ in 仙台(宮城)	ぼうさいカフェ in 島根	ぼうさいカフェ in ママ∞フェスタ2013(香川)
防災フェア2012 in 横浜(神奈川)	ぼうさいカフェ in とっとり	ぼうさいカフェ in あやがわ2013(香川)
ぼうさいカフェ in 佐久(長野)	ぼうさいカフェ in 徳島	ぼうさいカフェ in やまぐち(生協まつり)
ぼうさいカフェ in 中野(長野)	ぼうさいカフェ in 愛媛	子どもたちに伝えたい防災のこと2013(岡山)
ぼうさいカフェ in 大北(長野)	ぼうさいカフェ in 高知	ぼうさいカフェ in おおむた(福岡)
ぼうさいカフェ in 木曾(長野)	ぼうさいカフェ in かごしま	ぼうさいカフェ in 京築・田川地協メーデー(福岡)
ぼうさいカフェ2012 in 熊本	ぼうさいカフェ in ながさき	ぼうさいカフェ in ぎのわん(沖縄)
ぼうさいカフェ in おおいた	ぼうさいカフェ in 福島(全労済文化フェスティバル開催会場)	
ぼうさいカフェ in みやざき	ぼうさいカフェ in さが2012国際協同組合年さが交流フェスタ	

※順不同

住まいと暮らしの防災・保障点検運動

全労済では、組合員の皆さんに防災・減災の知識を分かりやすくお伝えするため、「備える・守る・再建する」をキーワードとして、『住まいと暮らしの防災・保障点検運動』をすすめました。一人ひとりが今なすべきことを明らかにすることで、災害に対する的確な対応を支援できるよう「防災点検アンケート」にお答えいただき、防災・減災に関する現状の再確認と保障の見直しのためのパーソナルな診断を行うものです。2011年6月から2013年5月までで、約27万枚のアンケートをお受けしました。



防災点検アンケート

子どもの健全育成・次世代育成活動

趣旨



少子化をはじめとする家庭環境の変化や、地域社会におけるつながりの希薄化等、子どもや家庭を取り巻く問題が複雑化しています。全労済では、未来を担う子どもたちのために、助成事業による、人と人とのきずなを大切に、子どもの健やかな成長を支える活動支援のほか、インターンシップ・寄付講義などを通じたキャリア教育支援を行うことで、課題解決に取り組んでいます。

インターンシップの受け入れ

全労済では、学生の就業体験を支援することを目的に、就業に対する意識を高め、心構えができる機会となるよう、毎年インターンシップ実習を実施しています。ビジネスマナーや協同組合の基礎を学ぶことから始まり、協力団体訪問などの事業推進業務、共済金支払業務などの現場を体験。全労済総会においては、実際に事務局補助として働いていただきました。最終日には、この実習のまとめとして、どんなことを感じ、学んだのかについて、レポートを作成し、報告会を実施しました。



課題に取り組む実習生



担当者の声

2012年度は、8月20日から31日までの2週間にわたり、2名の学生の受け入れを行いました。さまざまな職種の現場を体験し、また、協力団体の方々のご協力により貴重なお話を聞くことができ、いろいろな事を考え、学ぶことができた実習だったと思います。受け入れ側の職員としても学生の皆さんの新鮮な感覚に学ぶことがたくさんあり、互いに良い実習だったと感じました。

全労済 人事部 教育センター 副主査 三浦朋美



寄付講義の開催

全労済では、東京工業大学大学院社会理工学研究科との間で研究・教育ネットワークを構築し、さまざまな活動を通じた協同組合理念の実現を目的に、2007年4月より、「生涯設計のためのリスク管理と労働福祉」をテーマとする寄付講義を開講しています。寄付講義は前期15回、後期15回で構成され、7年目の開講となる2013年度は、業界・学界の有識者や行政経験者等を講師にお迎えして、社会保障・労働・雇用・共済・国家財政・税制、年金・医療・介護・生活保護などの問題を取り上げています。



東京工業大学での寄付講義

研究者の育成

全労済では、学識経験者との連携強化と将来を担う協同組合および共済等の研究者の育成を目的として、2009年度から、大学院の博士後期課程を対象に給付奨学生(奨学金年額60万円)を募集。2012年度までに7名を採用しています。2013年度は4名の給付奨学生を採用。共済、協同組合等の研究活動をすすめていただく予定です。この取り組みが、一人でも多くの、当該分野における研究者の育成につながることを期待しています。

2013年度給付奨学生研究テーマ

- ・高齢社会における日本の協同組合組織の役割と制度の相克
- ・住民主体のローカルコミュニティ形成時における、協力を主体とした社会システム(協同組合型組織)の可能性と現状、課題
- ・生命保険協会の裁定審査会に見る消費者の疾病共済、保険に対する認識と問題点
- ・保険法の適用される「共済」について

地域・文化支援などその他の活動

趣旨



「次代を担う子どもたちとご家族に、良質な文化芸術に触れ、豊かな心を育んでいただきたい」。そんな願いを託し、“ご家族皆さまで楽しんでいただける”のキャッチフレーズに沿った、厳選した作品を取り揃え、毎年演劇などをお届けしています。2010年度からは全国展開を開始しており、それぞれの地域における、組合員とのコミュニケーションの機会としても役立っています。

全労済文化フェスティバル2013の開催

22回目の全労済文化フェスティバルは、東日本大震災子ども舞台支援のためのチャリティー公演「3.11を忘れない」のほか、夢を信じて生きることをテーマにした作品「天使の休日」、「シートン動物記」をもとに生きることの尊さを描いた「新オオカミ王ロボ」、不朽の名作「星の王子さま」の舞台化の4作品。計24公演に計6,500名のご家族にご来場いただきました。また、全国展開として3府県で開催したフェスティバルでは計2,600名のご家族にお楽しみいただきました。

日程と演目



東日本大震災子ども舞台支援のための
チャリティー公演
「3.11を忘れない-命の尊さを謳う-」
公演日:2013年3月19日(火)・20日(祝)



SHOW-COMPANY オリジナルミュージカル
「天使の休日」
公演日:2013年3月23日(土)・24日(日)



ミュージカル
「新オオカミ王ロボ」
公演日:2013年3月29日(金)～4月7日(日)



劇団仲間
「星の王子さま」
公演日:2013年4月12日(金)～14日(日)

全労済文化フェスティバル全国展開

佐賀県本部

劇団俳協
ミュージカル「あらしのよるに」
公演日:2012年3月11日(日)

大阪府本部

劇団俳協
いたずらぼうけん
ミュージカル
「かいけつゾロリ～まほうつかいのでし」
公演日:2012年8月26日(日)



福島県本部

劇団俳協
いたずらぼうけんミュージカル
「かいけつゾロリ～まほうつかいのでし」
公演日:2013年5月11日(土)

2012年 夏休み児童・青少年演劇フェスティバル



“笑いと涙と感動をあなたに！”をキャッチフレーズに、ミュージカル・舞台劇・民族芸能や演劇的体験ができるワークショップなどの内容で開催される「夏休み児童・青少年演劇フェスティバル」を共催し、約5,000名のご家族の方々にお楽しみいただきました。

公演日:2012年
7月21日(土)～8月7日(火)
主催:日本児童・青少年演劇劇団協同組合
共催:全労済
後援:東京都、
全国公立小学校児童文化研究会 ほか



担当者の声

どの公演もご家族の方々の歓声や笑顔であふれ、開催して良かったと感じました。全国展開では、座席数の関係で抽選を行わざるを得ないほど多くのお申し込みをいただきました。以下アンケートより抜粋します。「母は泣き、子どもも集中して観てるって素晴らしい感じです。」(新オオカミ王口ボ公演)「親子で楽しめました。深い内容、いろいろ心に持って帰ります。」(星の王子さま公演)

全労済 事業推進部 広告宣伝課 課長 吉田卓哉

社会福祉団体への寄付

全労済では、1981年より障がい者を対象とした支援活動、高齢者を対象とした支援活動、災害対策を対象とした支援活動を行っている社会福祉法人などの団体へ、継続して支援を行ってきました。2012年度も外部有識者等による審査委員会にて以下の23団体を選定し助成金を交付しました。

No.	団体名	事業名
1	学校法人 日本社会事業大学	共生社会の実現に向けての啓発事業～障害者新法施行後の取組～
2	NPO法人 スタンド	障がい者が継続的にスポーツができるクラブの運営
3	社会福祉法人 日本盲人職能開発センター	視覚障がい者を伴う眼疾患の現状と就労のセミナーの開催事業
4	社会福祉法人 日本点字図書館	視覚障がい者の情報収集支援事業
5	公益財団法人 テクノエイド協会	車いす利用時における「姿勢保持」に関する情報提供事業
6	財団法人 全日本ろうあ連盟	アクセシビリティ(映像アクセス、情報アクセス)に関する啓発促進事業
7	社会福祉法人 全国盲ろう者協会	当事者主体の運営を目指した「全国盲ろう者大会」開催事業
8	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会	障がい者の差別禁止に関する法律の制定に向けた意識啓発事業
9	社会福祉法人 日本盲人会連合	視覚障がい者の外出時の安全を総合的に保障するシステムを確立するための研究事業
10	社会福祉法人 日本盲人福祉委員会	日本の視覚障がい者の現状に関する情報提供事業
11	財団法人 日本障害者スポーツ協会	パラリンピック(ソチ・リオデジャネイロ)選手育成強化事業
12	社会福祉法人 日本介助犬協会	障がい者、障がい児及びリハビリテーション専門職への介助犬普及啓発事業・社会参加のための介助犬使用者継続指導事業
13	社会福祉法人 聴覚障害者情報文化センター	聴覚障がい者向け映像作品の利用促進および手話挿入作品制作基盤整備事業
14	社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター	「視覚障がい者の国家公務員、地方公務員、普通科教員の採用状況とその配属先についての全国調査」「視覚障がい者国家公務員・地方公務員・教員の事例集」
15	公益財団法人 スペシャルオリンピックス日本	スペシャルオリンピックス日本ボランティア育成事業
16	社会福祉法人 浴風会	認知症介護家族からのメッセージ ～心の軌跡を踏まえて地域で安心して暮らす～
17	公益社団法人 日本動物病院福祉協会	人と動物のふれあい活動(アニマルセラピー)の普及・啓発事業
18	社団法人 シルバーサービス振興会	高齢者虐待防止のための「介護現場リーダーのメンタルヘルス実践ハンドブック」の作成配布事業
19	社団法人 日本福祉用具供給協会	進行性疾患における、福祉用具の利用目的と使い方の解説集作成事業
20	社団法人 虹の会	老人福祉施設入所者等レクリエーション活動支援事業
21	一般社団法人 日本介護支援専門員協会	大規模災害発生直後から要援護者支援のために被災地へ派遣する介護支援専門員の養成事業
22	一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会	福祉用具の適切な利用支援と事故予防のための多職種連携を推進する研修ツール等の制作・普及に関する事業
23	NPO法人 地域ケア政策ネットワーク	住民、行政、企業連携による地域で認知症の人を支える先進モデル事例の調査研究事業

全労済地域貢献助成事業

全労済では、社会貢献活動の一環として、1992年より環境問題などに取り組む団体に対する助成事業を行ってきました。現在は、環境活動に子育て・子育て支援活動を対象に加え、これらに携わる市民団体等を広く全国から募集し、助成を行っています。

なお、2012年度は、「東日本大震災 復興支援特別枠」として、震災の被災地で防災・減災をテーマに活動する地域の団体に対し、総額1,000万円の助成を別途行いました。

※ 関連記事：3～4ページ

「被災地の消防団・防災組織が語るプロジェクト」

全国の環境活動および
子育て・子育て支援活動に
携わるNPOなどから、
広く募集しています



全労済地域貢献助成事業について

趣旨

全労済は、豊かで安心できる社会が形成され継続するために、たすけあいの輪を広げ、積極的に地域社会へ貢献していきます。その一環として、「未来の子どもたちに豊かな自然を残すために、今と未来を生きる子どもたちのために」をテーマに、地域の人々がたすけあって環境を守る活動、子どもの健やかな育ちを支える活動を支援します。活動の輪が広がることにより、人と人の絆が強まり地域コミュニティの形成、発展、再生につながることを期待します。

助成対象となる団体

日本国内を主たる活動の場とする、下記(1)～(3)のいずれにも該当する団体を対象とします。

- (1) NPO法人、任意団体等(NGO、ボランティア団体等)
- (2) 設立後1年以上の活動実績を有する団体
- (3) 直近の年間収入が300万円以下の団体(前年度の繰越金を除く)

助成対象となる活動

環境分野

- (1) 地域の自然環境を守る活動
- (2) 循環型地域社会をつくるための活動
- (3) 地域の自然や環境の大切さを学ぶための活動

子ども分野

地域の中で、学校外の多様な育ちを応援する次のような活動

- (1) 子どもたちの豊かな遊びの場をつくる活動
- (2) 子どもたちが交流し学びあえる場をつくる活動

※ 子ども自身が主体的に参画して取り組む活動を重視します。

両分野共通で重視する活動

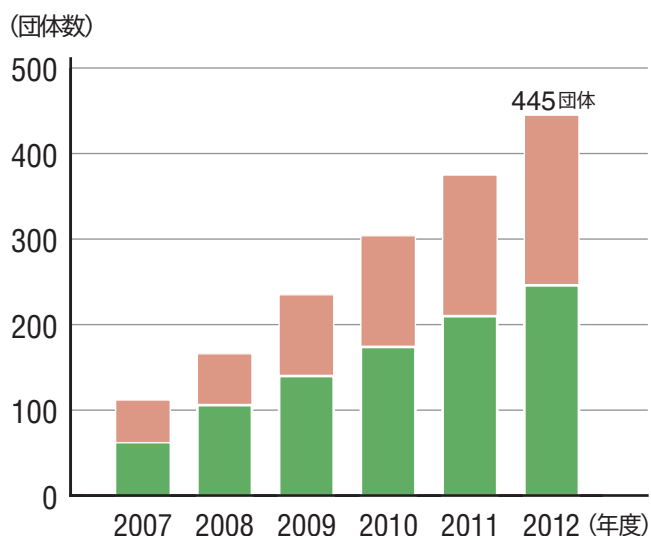
- 多数の地域住民、市民団体や自治会などが活動に関わることで、人と人とのつながりが生まれ、コミュニティの形成、発展、再生につながるような活動
- 地域に密着し継続して取り組む活動
- 助成によってどう活動が充実、発展するのかが明確である活動

助成内容

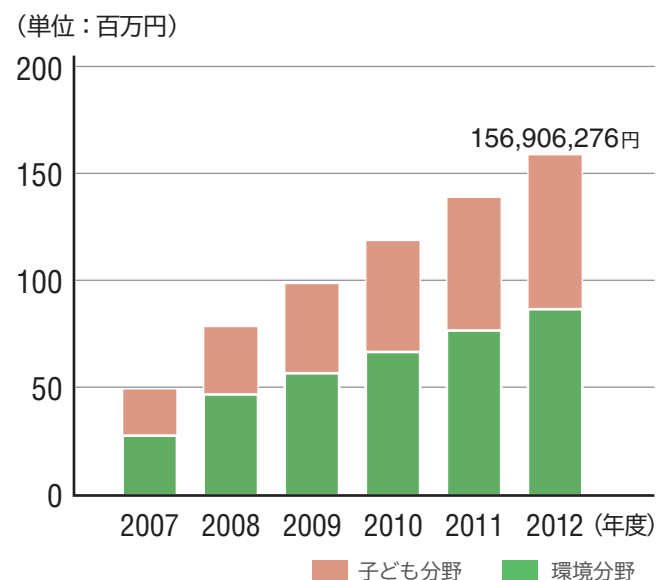
- (1) 助成総額：2,000万円(上限)
- (2) 1団体に対する助成上限額：30万円

これまでの実績（2007年度～2012年度）

助成団体数の累計棒グラフ(延べ)



助成金額の累計棒グラフ



都道府県別助成団体数(延べ)

都道府県	団体数	都道府県	団体数	都道府県	団体数	都道府県	団体数	都道府県	団体数
北海道	15	青森県	6	岩手県	11	宮城県	15	秋田県	7
山形県	7	福島県	3	茨城県	12	栃木県	5	群馬県	4
埼玉県	18	千葉県	14	東京都	37	神奈川県	21	長野県	7
山梨県	5	静岡県	11	新潟県	9	富山県	6	石川県	5
福井県	6	愛知県	16	岐阜県	11	三重県	6	滋賀県	10
奈良県	6	京都府	20	大阪府	24	和歌山県	5	兵庫県	24
島根県	7	鳥取県	4	岡山県	7	広島県	10	山口県	7
徳島県	6	香川県	6	愛媛県	1	高知県	6	福岡県	17
佐賀県	1	長崎県	4	熊本県	8	大分県	4	宮崎県	3
鹿児島県	4	沖縄県	4	総数					445

※2007年度から2012年度までの集計



担当者の声

1992年より環境分野の団体に、2007年からは環境分野と子ども分野の団体に対して助成を行い、地域の環境保全や子どもの健やかな育ちを後押ししてきました。助成事業を通じて地域コミュニティの形成、発展、再生につながることを願い、引き続き全国の団体を支援していきます。また、より多くの非営利団体に当事業を知っていただく活動にもチャレンジしていきたいです。

全労済 総務部 部長 高地正



2013年 全労済地域貢献助成事業 助成団体一覧

環境分野

No.	所在地	団体名	活動内容
1	北海道	苫東・和みの森運営協議会	苫東・和みの森ボランティアのノウハウを活かした出前型森林環境教育活動
2	北海道	環境 NGO カピウ	小学校の授業で使用する自然観察の副読本 -北海道版- の製作
3	青森県	こまきの自然学校	環状列石から自然生態系の循環を考える活動
4	福島県	フクシマ環境未来基地	若者ボランティアと地域住民との協力による、親子で遊べる森づくり活動
5	茨城県	取手市里山・谷津田保全「いもりの里」協議会	取手市里山・谷津田保全「いもりの里」事業 教育プログラム
6	埼玉県	ふるさと上谷沼 地域創造塾	上谷沼のエコ発信局
7	埼玉県	こどもの根っこを育てる会	保育園年長児への森のムツレ教室開催
8	千葉県	日の出ふれあい農園	ご近所グリーン・ツーリズム活動 ～農園からひろがる緑の学びと体験～
9	東京都	ねりま・ごみフォーラム	生ごみ堆肥化推進事業
10	東京都	一般社団法人 ハートリレープロジェクト	みなまた 環境教育プログラム(いなか学校)
11	東京都	NPO法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア	大学生による環境教育実践サポート事業
12	東京都	NPO法人 地域活性システム研究所	子どもたちによる「千代田環境カレンダーづくり」
13	長野県	田毎の月棚田保存同好会	名勝・重要文化的景観「おぼすて(田毎の月)」の棚田の保全活動
14	静岡県	NPO法人 グリーンエネルギーしずおか	「親子でつくろうエコエネルギー」エネルギー環境教育
15	新潟県	森林インストラクターと市民有志	瞑想の池の貴重生物を守る環境整備
16	富山県	小菅沼・ヤギの杜	手作りあずまやと獣害防護柵の設置
17	福井県	NPO法人 森林楽校・森んこ	食育を通じて里山の暮らしを学ぶ「里山体験料理教室」
18	岐阜県	長良川流域子ども協議会	長良川流域子ども交流会
19	滋賀県	田根地区・地域づくり協議会	SoHub + 田根
20	奈良県	いこま棚田クラブ	生駒市西畑町の棚田・里山の再生と創造
21	奈良県	NPO法人 環境市民ネットワーク天理	楽しみながら学び・味わう、「水源の森」づくりと「里山」体験学習
22	奈良県	ボランティアサークル 心の森	「心の森」わくわくマイクロ水力発電&エネルギー自給村プロジェクト
23	京都府	BVアサギマダラの会	旅をする蝶アサギマダラの飛来環境改善と標識活動の活性化
24	大阪府	阿波座南公園ビオトープクラブ	“持続的なビオトープの維持管理・活用”基盤整備プロジェクト ～子どもも大人も楽しむ・関わるビオトープへ～
25	大阪府	リサイクル工房・竹炭塾	四季折々の能勢の自然と竹炭づくり楽しむ
26	兵庫県	宝塚エコネット	ホテルの里ピカピカランドの管理とホテルの幼虫放流会による環境学習
27	兵庫県	いなみさん家	クローゼットに眠った服の交換会「xChange」(エクスチェンジ)
28	島根県	NPO法人 隠岐しぜんむら	環境学習指導者養成および環境学習会の開催
29	広島県	日本野鳥の会広島県支部	八幡川河口人工干潟清掃探鳥会
30	山口県	竹林ボランティア俵山	放置竹林の再生整備と小学生を対象にした竹林体験学習のサポート
31	香川県	Peace of New Earth 実行委員会	守ろう自然！さぬきの鎮守の杜を感じるプロジェクト
32	福岡県	NPO法人 北九州市を明るく元気にする会	素敵で快適な居住環境づくりの環境整備事業
33	熊本県	NPO法人 コロボックル・プロジェクト	金峰山学講座Ⅲ(金峰山学講座とコロボックル探検隊)
34	大分県	NPO法人 いきいき安心おおい	鬼瀬地区遊歩道周辺の山林保全と地域住民と交流活動
35	宮崎県	日南市青年団協議会	青年クリーン活動
36	鹿児島県	NPO法人 心音	沖永良部しまあかりプロジェクト

計36団体 助成金額9,833,606円

子ども分野

No.	所在地	団体名	活動内容
1	北海道	北海道フリースクール等ネットワーク	フリースクールフェスティバル
2	北海道	NPO法人 山ほたる	森林に親しみながら、アートクラフト作り&地域の山菜などを使ったスイーツ作り事業
3	宮城県	チーム 暁	東松島寺子屋プロジェクト
4	福島県	大熊町自閉症児親の会 スマイル	すべての子ども(障がい児・健常児)親と子の体験活動事業
5	埼玉県	こども☆夢☆未来フェスティバル推進委員会	こども☆夢☆未来フェスティバル2014 子どもプレゼンテーション
6	埼玉県	NPO法人 ファミリーリンク越谷	「1日子ども商店街」～あなたも子ども店長になってみませんか～
7	東京都	みんなでkids陶芸	kids☆産業商工☆フェスタ
8	東京都	NPO法人 こだいら自由遊びの会	「森で遊ぼう2013」と「きつねばら公園にみんなでリーダーハウスを建てよう！」
9	東京都	豊島子どもWAKUWAKUネットワーク	無料学習支援 ～貧困の連鎖を断つために～
10	東京都	大田おもちゃライブラリー「じゃりかふえ」	障がいの有無を問題とせず、地域の親子交流を活性化させるBASE(ベース)づくり
11	東京都	福島の子どもたちを府中に招く市民の会	2013 東京で遊ぼう2泊3日 in 府中
12	東京都	上原ファンイン	子どもたちのかかわる力を高めて、地域の未来づくりへ
13	東京都	らっこの会	みんなの居場所・コミュニティ寺子屋「のぞみ塾」の立ち上げと運営
14	東京都	NPO法人 スマイルングホスピタルジャパン	入院中の子どもたちを芸術家が訪問し、その専門性を生かし創造性あふれる豊かな時間を共有する活動
15	長野県	NPO法人 小諸町並み研究会	「城下町・町並みミュージアム」の実施
16	新潟県	新潟保養プロジェクト	2013 夏休みのびのびプロジェクト in 新潟
17	新潟県	滝寺まちづくり協議会 子供自然体験と環境部	耕作放棄水田を生かした田んぼビオトープで子どもの原体験を広げる活動
18	石川県	日常生活支援サポートハウス	いしかわ発達 ～凸凹(でこぼこ)の会～
19	三重県	NPO法人 マザーズライフサポーター	親子で「つち・みず・ひ」を見る・さわる 自然体験イベント 亀山・加太地区
20	滋賀県	NPO法人 おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会	防災サバイバルキャンプ
21	京都府	絆キャンプ in 京都	絆キャンプ in 京都
22	京都府	鏡田自然体験クラブ	チャレンジ教室(身近な自然体験活動と木工もののづくり活動)
23	大阪府	NPO法人 子どもデザイン教室	「コンピュータ技能」で親と暮らせない子どもたちの自立を支援する事業
24	大阪府	eトコプロジェクト	寺子屋eトコ
25	大阪府	NPO法人 子育てネットくるみの会	お母さんが地域につながる居場所づくり「くるみハウス」
26	兵庫県	こどもひかりプロジェクト	2個にこプログラム ～まつぼっくりを福島の子どもたちへ～
27	兵庫県	高砂クリエイティブリサーチ	子どもと共に作るフィールドワーク
28	鳥取県	智頭町百人委員会 コントリビューションの会	支援米作りを通しての異世代交流、国際貢献
29	岡山県	ママほっとサロン	あかちゃんあつまれ!
30	徳島県	紙芝居ボランティア「おしゃべりくまさん」	紙芝居等の県内巡回公演事業
31	長崎県	子育て支援団体 ママパパ	ママパパネイチャークラブ ～積み木で遊ぼう!!～
32	熊本県	龍田共育ネットワーク	第10回身近な森の音楽祭
33	大分県	大分県立国東高等学校 JRC(青少年赤十字)	「食」を通して人と繋がる高校生の町作り活動
34	沖縄県	公立大学法人 名桜大学 学習支援ボランティアサークル/ぴゅあ・サポート	沖縄の歴史と文化を体験的に学び合う大学生と中学生の交流の旅

計34団体 助成金額9,863,080円

2012年 助成団体インタビュー

NPO法人 こんぶくろ池自然の森



事務局長
古橋 勲さん

—ずいぶん大きな規模の、 森林公園なんですね。

私たちの活動のフィールドでもあり、団体名でもある「こんぶくろ池自然の森」は、千葉県柏市の北部に広がる、約18.5haの、湧水を有する森林です。市民の生活圏に接しながら、豊かな生態系を残しています。柏市が自然を活かした公園整備の計画を決定し、「市民で育てる100年の森」を掲げて以来、官民学で連携し、保全に取り組んできました。私たちは、2006年に有志により結成された団体で、柏市の委託を受けてこの場所を管理しています。50名弱の会員が、調査と里山整備の2グループに分かれて活動を行っています。

—活動を始められる前は、 暗くて怖い森だったとか。

今は美しい森の姿を見ることができますが、以前は、手入れされずに荒廃した、昼間でも暗い森でした。車の通行が可能だったこともあり、不法投棄も深刻でした。以前を知る人たちには「きれいになったね」と感心され



「自然の表情は毎日見ても飽きない」と語る古橋さん

ます。もともと森林整備など未経験の素人集団でしたが、こつこつやってきた甲斐がありました。お陰様で現在では、一通りのことが手際よくできるようになったんですよ。全労済さんからの助成金で整備した観察路では、木道を自分たちで作りました。いただ

いた助成金ではほかに、樹木プレートを作成して取り付けます。私も7年やっていますが、木々や野草、森に住む生き物についてもすっかり詳しくなって、季節ごとに現れる生き物や、花開く植物を見るのが楽しみです。もちろん、地域の皆さんにも楽しんでもらいたいです。

—どんな願いをこめて、 活動されているのでしょうか。

活動の中で常に意識しているのが、次世代への継承です。自然の中で遊び、自然を愛する心を育ててほしいと願って、子ども向けの観察会



夏にはたくさん子どもたちが遊び、学んだり工作教室も行っています。自然の木につくカブトムシの姿を初めて見る子もいますよ。人が多く訪れることで自然が損なわれる心配もあり、ジレンマもなくはないですが、地域の人たちが、自分たちのものとして大事にできるような場所に育てていきたいです。

● 助成分野: 環境

● 所在地: 千葉県

● 助成対象活動:

こんぶくろ池とその周辺の自然環境の保全を通し、官民学で連携しながら、住みよい地域づくりに取り組む。

■ Webサイト: <http://www.konbukuroike.com/>

駄菓子や「くにちゃん」



副代表
河津 征二さん

代表
吉村 多恵子さん

－「駄菓子屋」という形態は、ずいぶんユニークですね。

学校にも家庭にも自分の居場所を見つけづらい子どもたちが増えている社会的な背景を受けて、子どもたちが気負わずに訪れて、やさしい時間を過ごせる場所をつくりたいと思いました。駄菓子屋ありきではなかったのですが、数十円で買えるお菓子が、立ち寄るきっかけになると考えました。週に1回の駄菓子屋を開く日には、100人来ることもあるんですよ。何の義務も生じない場所での、利害関係のない大人の存在が、自然と心を開かせるのでしょう。本音で話してくれたり、より所にして通ってくる子どもたちも多いです。

－子どもたちとの、印象的なエピソードはありますか。

それはそれはたくさんあります。駄菓子や「くにちゃん」は子どもの居場所なので、駄菓子売るだけではなく、後ろの部屋の中で子どもたちが楽しめるよう、何かしらのワークショップを開催したり、思い思いに遊べる



「子どもたちには感動させられたい」と語る吉村さん

ようにしています。ビーズ細工は当初から大人気でしたが、最近、すごい才能の持ち主が現れました。その子は小学校の高学年で、「僕には障がいがある」と言いました。聞くと、キレやすく、それが人一倍長く続くそうで、自分でも気にしているようでした。その

子が自分で考えて、立体の素晴らしい作品を次々と作ります。驚くやら感動するやら。すると彼も喜んで、年少の子に教えてあげたりします。教え方も丁寧でやさしくて、また感動。それを知ったお母さまも、とてもうれしそうでした。ここでは感動の連続なんです。

－活動続けるうえでの、課題はなんでしょうか。

運営資金と後継者の問題ですね。ありがたいことに、全労済さんには3年連続で助成金をいただきました。お陰で、科学教室にお茶会、震



駄菓子屋が世代間交流の場にもなっている。災害のチャリティーマーケットなど、さまざまなイベントを開いて、子どもたちに貴重な体験の場を提供できました。ただ、有志による持ち出しで成り立っている部分も多いのが実情です。これでは若い人に活動を引き継ごうにも難しいので、打開策を考えないといけませんね。

● 助成分野： **子ども** ● 所在地： 東京都

● 助成対象活動：
駄菓子屋を入りに、地域の子どもたちを対象にしたさまざまな体験の提供と、居場所づくりを行う。

■ Webサイト： <https://sites.google.com/site/kdmi92/>

2012年 助成団体の紹介

2012年全労済地域貢献助成事業では、全国から336団体の応募がありました。環境分野より36団体、子ども分野より34団体が選定され、総額19,624,300円を助成しました。助成を行った団体を、各分野2団体ずつご紹介します。

大館自然の会

地域の空気と水、動植物等を守り、次世代へ

自然保護憲章を地域に実現するため1988年に会を創設しました。地域の自然環境を次世代に残すことを目標に、①森づくり(長木川源流域にブナなどの広葉樹5,900本を植樹)②トンボ公園づくり(「市民の森」内に16面の池を造成し、39種のトンボが生息)③自然観察会(里山観察・観察登山・渡り鳥観察ほか)④環境学習読本の発行と普及、カラス生息調査、ふるさと学習や生涯学習の支援、行政機関等へ環境保全の提言を中心に、活動しています。

● 団体からのメッセージ

会のスタッフは、植物・野鳥・昆虫・気象・写真・歴史など得意分野を持っています。昨年は「環境あきた県民塾」の体験講座を担当し、「あきたエコマイスター」の養成に協力しました。自然環境を大切にすることを大館市から発信し、各地の皆さんと実践活動の交流を深めたいと考えています。お近くにお越しの際はお立ち寄りください。



毎年恒例の、ブナの苗木を植える集い

● 助成分野: **環境** ● 所在地: 秋田県

● 助成対象活動:

児童生徒などを対象に配布する環境学習リーフレットを作成。また、大館市の「市民の森」内にあるトンボ公園の整備を行う。

長良川流域子ども協議会

長良川流域のつながりの大切さを学んでいます

長良川流域子ども協議会では、長良川流域に暮らす子どもたちの交流を通し、流域の森・川・海のつながりを学ぶ活動を行っています。毎年、8月に地域の方々の協力を得て、長良川の上流から下流までの子どもたち100人の2泊3日の自然体験、10月に森林保全の活動、サツキマスの産卵観察を行い、多くの小・中学生が参加しています。活動では協議会のメンバーのほか、地元の大学生・高校生がスタッフとして参加しています。

● 団体からのメッセージ

助成金は、参加者の送迎費用や地域の指導者への謝礼などに活用させていただきます。参加する子どもたちの負担を少しでも少なくし、より多くの子どもたちに参加してもらいたいと考えています。将来は、参加してくれた子どもたちがスタッフとして活動を支えてくれたり、地域の環境保全にかかわっている姿を期待しています。



マスをつかまえようと夢中の子どもたち

● 助成分野: **環境** ● 所在地: 岐阜県

● 助成対象活動:

長良川流域に暮らす子どもたちの交流を図り、水の大切さ、川について学ぶ楽しさを知ってもらう活動。

■ Webサイト

<http://nagara-kids.com/blog/>

守山商工会青年部

「商売ってこんなに楽しい」を子どもたちに

地域の将来を担う子どもたちに「商売の楽しさ」を伝える活動として、「子ども商店街」事業に取り組んでいます。実際の店舗の中に、2日間限定の商店街を作り、50名の小中学生がお客さん相手に商売体験をします。商売の「厳しさ」も知ってもらいたいため、大人は極力手を出しません。子どもたちだけで話し合い、助け合いながら、運営していくことで積極性、判断力、協力する心、自立心など将来欠かすことのできない心の成長につながっています。

● 団体からのメッセージ

助成金は、「子ども商店街」の開催チラシなどの印刷費および材料費に充てさせてもらいました。本事業を周知することができ、来場者が増えたことで子どもたちのやる気も向上し、事業を成功へ導くことができました。商売人の青年部だからこそできる活動として、これからも「商売の楽しさ」をしっかりと子どもたちに伝えていきたいです。



2012年1月に開催した「子ども商店街」の様子

● 助成分野: 子ども ● 所在地: 愛知県

● 助成対象活動:

地元の子どもたちを募集し、実際の店舗で商売体験をするため、ワークショップ等を開催する。

NPO法人 しあわせみかん山

ちびっ子×カマド おいしいあんしんそだてよう

後継者のいなくなったみかん山で、安全安心なみかんを生産者と消費者とが、手をつないで育てようと、2,000本の樹で自然栽培を実践し、人と自然のつながりの場も一緒に育てています。そこで、みかん山の中に作ったカマドを利用し、休日に地域の子どもたちに開放する、「ちびっ子・カマド倶楽部」を設立。地域のお年寄りが先生となり、火の使い方から、煮炊きまでしっかり指導！半年かけて、みかんといっしょに子どももゆっくり育っています。

● 団体からのメッセージ

地域の宝ってなんでしょうか？それは「つながり」です。文化のつながり、世代のつながり、知恵や知識のつながり、そして未来へのつながり。みかんの成長とカマドを利用した食体験を通して、食の大切さ、農業の面白さ、自然の良さを身体で感じてもらえたら、必ず明るい未来につながっていくと信じています。



カマドで火を起こす子ども

● 助成分野: 子ども ● 所在地: 高知県

● 助成対象活動:

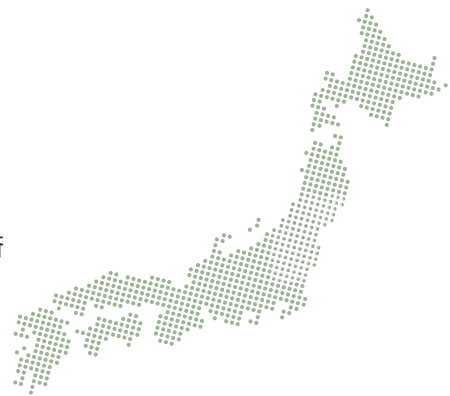
地域のお年寄りが先生となり、自然の中で、カマドの使い方・山遊び等を実践をもって伝えていくフィールドワーク。

■ Webサイト

<http://www.shiawasemikanyama.jp/>

全国の事業所での活動

募金活動から地域密着のボランティア活動、チャリティーイベントまで、全労済の各県本部を中心に展開された、2012年度の主な社会貢献活動をご紹介します。



秋田県

- 「赤い羽根共同募金運動」の取り組み（2000年10月から13年目）



活動レポート

県内の地域福祉活動の発展に少しでも寄与したいと、赤い羽根共同募金への協力を始めて13年目を迎えます。募金は障がい者の方、高齢者の方の福祉向上に役立てられています。“保障の生協”として、ぜひ今後も続けていきたいと思ひます。

山形県

- あいびい保育園(福島県から山形県への震災避難者専用保育園)への寄付

茨城県

- 「加入者の集い」参加者(2,470名)に、使用済み切手等の持参呼びかけ、茨城県国際交流協会へ寄贈

栃木県

- 特別養護老人ホーム「元気の里」での清掃活動と介護ボランティア
- 「旅のプレゼント」にて障がい者の介助補助や車内イベントを実施
- 全労済の共済会と民生委員協力のもと独居老人宅へ「花ずし」をプレゼントする活動

群馬県

- 地域組合員交流企画・被災地復興支援バスツアーの実施(バス2台・60名)
- エコキャップの収集によるワクチン等の寄贈への協力

埼玉県

- 「全労済カップ争奪 第38回埼玉県スポーツ少年団 小学生軟式野球交流大会」への特別協賛

千葉県

- 「第9回全労済産別推進会議チャリティーイベント交流会」寄付による「あしなが育英会」への遺児奨学資金提供

東京都

- 東日本大震災復興支援として「東北復興支援食品カタログ」購入
- 「2013～KOBE MEMORIAL 1.17 灯りのつどい」市民型防災・減災イベントへのボランティア参加
- 「夏休み親子社会科見学／学ぶ×遊ぶ バスツアー」の実施
- 「ぜんろうさいエールフェスタ～ささえる・つながる・たすけあう～」の実施
- 「親子社会科見学／地下鉄施設見学ツアー」の実施
- 募金付飲料水自動販売機の設置
- 総代会議案書類用エコバッグの購入による「MOTTAINAI」キャンペーンへの参画(植林)

担当者の声

地球環境の保護を訴える「MOTTAINAIキャンペーン」へ参加し、総代会資料を、“MOTTAINAIバッグ”に入れて皆さんにお渡ししています。このエコバッグの購入代金の一部は、「グリーンベルト運動」で植林のために役立てられています。

東京都本部 総務部 総務課 総務係長 石川篤史



神奈川県

- 帰宅困難対策訓練への運営協力

山梨県

- 参加料がYMCAの障がい児支援活動に充てられる「第15回山梨チャリティーラン2012」への参加

静岡県

- 県内11ヶ所の特別養護老人ホーム、社会福祉法人等への未使用タオル寄贈

新潟県

- NGO「ハンガー・フリー・ワールド」の回収キャンペーンに参加
- 「福島の子ども保養プロジェクト IN 新潟」に参加
- 東日本大震災復興支援／九州北部豪雨災害支援募金
- 被災地応援ツアーの実施

長野県

- 東日本大震災チャリティートーク&ライブ(中村雅俊ラジオ公開録音番組)を実施、義援金を栄村、女川町へ寄付



活動レポート

2012年12月3日開催の「中村雅俊チャリティートーク&ライブ」(SBC信越放送との合同企画)で集められた募金を、被災地である長野県栄村と宮城県女川町へ寄贈しました。女川町へは中村雅俊さんも同行し、子どもたちに書籍を提供しました。

東日本事業本部

- 「第40回全労済小学生作品コンクール」の開催

富山県

- 八重津浜、島尾海岸での富山県生協連主催「第18回海岸クリーン作戦」への職員の参加

福井県

- 福井市鷹巣海岸での福井県生協連主催「第16回海岸クリーンアップ」への職員の参加

愛知県

- 東日本大震災復興チャリティーイベント時の募金を日本赤十字社へ義援金として送金
- 「赤い羽根共同募金運動」の取り組みにより募金を愛知県募金会へ送金

三重県

- ・三重県環境保全活動「企業の森」に参加し、植栽の補植を実施。また、保全契約を継続

滋賀県

- ・「第22回びわ湖クリーンフィッシング大会」への後援

京都府

- ・第29回親子劇場(劇団四季ミュージカル「桃次郎の冒険」)の開催
- ・「京都労協健康づくりフェア」への職員の参加
- ・「全労済の森」森林保全活動。モデルフォレスト協会への加盟、亀岡市森林組合への森林保全委託
- ・京都SKYセンター主催の「SKYふれあいフェスティバル」への協賛

大阪府

- ・「第28回 全労済子ども絵画コンクール」の開催。同コンクール展示会場内であしなが育英会への募金活動実施
- ・東日本大震災支援全国ネットワーク主催「広域避難者支援ミーティング in 近畿」への協力
- ・「大阪マラソンクリーン UP 作戦」への職員の参加
- ・NPO 法人 ゆめ風基金等が主催する「東北⇄関西ポジティブ生活文化交流祭」への協賛
- ・「エイブルアート近畿2013 ひと・アート・まち」への後援
- ・劇団カッパ座による等身大人形劇「泣いた赤鬼」の開催
- ・全労済「春の子ども写生大会(保護者向け写真教室同時開催)」の開催



担当者の声

絵画を通して子どもたちの豊かな感性を育みたいとの思いを込めて、「春の子ども写生大会」を開催しました。真剣な眼差しで絵と向きあう子ども、画用紙いっぱい元気な絵を描く子どもの姿が見られ、ご家族とともに楽しい時間となりました。

大阪府本部 企画課 課長 坪井宏明
企画係 辻正登

和歌山県

- ・「わかやま市民協商品フェア」で『しんだん君』の活用による安全運転向上にむけた取り組み

兵庫県

- ・社会福祉法人 兵庫県協同募金会へ新規獲得件数に応じた義援金を贈呈
- ・福島県被災地の高校生夏合宿受入費用として、兵庫県に寄付金を贈呈
- ・公益財団法人 兵庫県芸術文化協会に寄付金を贈呈



活動レポート

東日本大震災や原発事故の影響で屋外での活動に制約がある児童・生徒とその保護者39名の方々と、淡路島の夏合宿に招待するため、兵庫県に100万円を贈呈しました。海水浴やサイクリング、テニス練習等の実施に役立てられました。

中日本事業本部

- ・ペットボトル等、飲料容器の分別回収と完全リサイクル
- ・ペットボトルのキャップ収集によるワクチン寄贈への協力

岡山県

- ・2012年度インターンシップの受け入れ
- ・スペシャルオリンピックス日本・岡山のイベントへボランティアスタッフとして参加
- ・「科学の祭典」へボランティアスタッフとして参加
- ・倉敷市パネル展への参加協力
- ・年末介護施設清掃活動
- ・「子どもたちに伝えたい防災のこと2013」の開催
- ・親子鑑賞会 人形劇「稲むらの火」の開催

広島県

- ・プルトップ&ボトルキャップ収集による後進国へのワクチン提供

山口県

- ・「あくしゅの会」(自閉症児・者対象の支援団体)、市民団体「ピース・バンビーノ」事務局活動の拠点に「全労済ふれあい館」を開放

徳島県

- ・2012年全労済徳島県本部地域貢献助成事業

香川県

- ・「エアポートクリーン作戦」への協賛金とボランティア参加

福岡県

- ・「2012福岡県民さわやかマラソン大会」への協賛金と運営への参加
- ・組合員へのいのちのたび博物館夏の特別展「対決! 恐竜展」の招待券配布

大分県

- ・大分県の「ごみゼロ隊」に登録し、「県民一斉ごみゼロ大作戦」の取り組みの一環として清掃活動を実施

宮崎県

- ・創立50周年記念地域貢献助成事業
- ・「第15回全労済ファミリースケッチ大会」の開催
- ・「女性のための健康講座」の開催



活動レポート

専門病院の医師を講師に、乳ガンなどの健康講座を開催し、86名の方が受講しました。マンモグラフィ無料検診のほか、個別相談会も実施。乳ガンや子宮頸ガンなど、女性特有の疾病について、予防策や対処方法などを学び、大変好評でした。

沖縄県

- ・「2012国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわキジムナーフェスタ」への協賛
- ・「第23回ぎのわん車いすマラソン大会」への協賛金と運営へのボランティア参加



担当者の声

長くボランティアをしています、一番うれしいのは大会参加者の喜ぶ顔です。天気が悪いと心配です。少しの雨や寒さでも選手の体調に大きくかわかるからです。介護スタッフの懸命さも心打ちます。俺たちも一生懸命頑張るぞ!

沖縄県本部 事業推進部 事業推進課 三谷和也

全労済グループの取り組み

日本再共済連

富士山の森づくりプロジェクト ～取り組み6年目～

社会貢献活動として、(公財)オイスカがコーディネートする「富士山の森づくりプロジェクト」に取り組み、「自然環境の再生」を目的に



シカ害防止ネットが設置されたエリア

支援を行っています。「富士山の森づくりプロジェクト」は、病虫害により樹木が大量枯死した富士山の西側斜面に広葉樹を植樹し、多様性のある森の早期再生を目指しています。日本再共済連では、2007年のプロジェクト開始から5年間で、面積4.6haへ約4,600本の苗木を植樹し、また、緑化維持活動等の経費支援を行ってきました。2012年度は、5年間に植樹した場所の緑化維持活動等の経費を負担する形での支援を行いました。モニタリング調査の結果、5年間にわたり植樹した苗木の生育状況は、現段階では概ね良好ですが、苗木の枯死率は年々高くなってきています。原因としては、富士山特有の気象状況である強風による倒木、シカの食害などがあげられます。そのため、2012年度は風通しが良く、高さ・直径の大きいシカ害防止ネットの設置がすすめられました。同プロジェクトは6年経過しましたが、まだはじめての一步にすぎません。植樹した苗木の成長を見守るため、今後も同プロジェクトの推進協議会に参加し、地域社会と連携した支援を行っていきます。

担当者の声

世界文化遺産に登録された富士山で、大量に枯死した樹木の再生を目的とした植林活動を行うため、このプロジェクトに参加しています。会員の役職員とともに植樹した苗木が成長している様子は、長い年月のかかる「森づくり」の「はじまり」を感じます。数十年後に立派な森となるよう見守っていきたいです。



日本再共済連
管理部 管理課
主任
石川一代

一般財団法人 全労済協会

東京シンポジウム「絆社会実現への展望 ～今こそ問われる生活支援とは～」

東日本大震災から一年あまりが経過する中で浮き彫りになってきた人々の間の「信頼」と「不信」について、不信から脱却し信頼の絆を回



金子勝氏の基調講演

復するため、私たちにどのような貢献ができるのかを考えていくことを趣旨に、各界を代表する論者を講師・パネリストにお迎えしてシンポジウムを開催しました。

宮城県講演会

「復興への基軸～世界の構造転換と日本～」

今も課題が山積する被災地の復興について、第一部は日本総合研究所理事長の寺島実郎氏に幅広い見地から講演をいただきました。第二部では奥山恵美子仙台市長、



奥山市長、石川氏、寺島氏による鼎談

石川幹子岩沼市震災復興会議議長に寺島氏を交えて、「被災地の復興に向けて」をテーマに未来ある若者の活躍に期待とエールを送りました。

2012年度出版物

- 『真の復興への視座 東日本大震災からの復興に向けて 講演会報告書』(2012年6月刊行)
- 『絆社会実現への展望 今こそ問われる生活支援とは シンポジウム報告書』(2013年1月刊行)

早稲田大学で寄付講座を開催

全労済協会では、2012年4月6日より早稲田大学商学部において、「グローバルな時代の生活保障論～変化する福祉社会を職業人・市民としてどう生きるか～」をテーマに寄付講座を開講しました。(前期15回・1講義90分)2011年4月より同校で開講し、2年目の開講です。

全労済 関連事業会社の取り組み

株式会社スペース・ゼロ

「Sharing～シェアリング～2012 in 新宿／in 宮城・福島」コンサート

シェアリング～分かち合い、共有～。「わたしたちは、今ある幸せも辛さも、共に分かち合いましょう！」東日本大震災後、庄野真代の呼びかけでミュージシャン26組が参加。新宿で開催した公演の収益をもとに、宮城・福島の被災県4カ所で無料コンサートを開催しました。

展示企画「Tシャツ&写真展」

東日本大震災後、イラストレーター等54名によるwhat we can project「私たちにできること活動」にてチャリティーTシャツの収益を寄付しています。このTシャツ展と写真家4名による被災地の写真展を開催しました。

マンガ家・アニメーター・イラストレーターによる「武者絵」展 in 新宿

東北夏祭りの先駆けである「相馬野馬追」。南相馬の子どもたちへ心のケアの支援活動を続けてきた「おたバックQB準備会」の呼びかけに、31名のマンガ家・アニメーター等が熱い思いを「武者絵」として表現しました。

「3.11の、あのね。#2」展

被災した子どもたちの体験や気持ちを表現した絵や作文は、あの日の記憶を風化させないための大切な記録。絵や作文に込められた思いやメッセージを後世につなぎ、その後描かれた絵や現在の活動の様子も伝える催事です。

担当者の声

東日本大震災から2年の月日が経過し、「震災の記憶を風化させない」という目的の催事が全国各地で開催されています。全労済ホール／スペース・ゼロにおいても、各ジャンルのアーティストによるさまざまな活動を、多くの方々に知っていただく場として提供してまいりました。



(株)スペース・ゼロ
企画制作チーム
マネージャー
高村裕子

全労済アシスト株式会社

東日本大震災被災者支援

関西でできる支援として各種イベントに協賛しました。

1. 「東日本大震災から県外避難されている皆さんへ
[おもてなしカタログ Vol.2]」
(社会福祉法人 大阪ボランティア協会主催)
2. 「3.11 from KANSAI 2013 ～一歩、また一歩～」
(社会福祉法人 大阪ボランティア協会主催)
3. 「サンタが100人やってきた!!」
(NPO法人 遠野まごころネット主催)
また、NPO法人 遠野まごころネットへ寄贈された「ドーナツ」を社内販売し、売上金(222,080円)をクリスマスプレゼント購入費として寄付しました。

ペットボトルキャップ回収活動

一部従業員の有志から始まった「ペットボトルキャップ回収活動」を拡大し、全社的に継続して取り組んでいます。回収されたキャップのリサイクル対価は、途上国の子どもたちにワクチンを届けるために役立てられます。

団体献血活動

全労済大阪事務センターと合同で「団体献血活動」を実施しました。全労済アシスト従業員からは89名の申し込みがあり、63名が献血に協力しました。

カード利用ポイントの寄付

法人クレジットカードの利用によりためられたポイント(35,000円分)を、日本赤十字社に寄付しました。

担当者の声

2012年度に実施した社会貢献活動のうち、従業員が参画した活動は、皆さんの理解と協力を得ることができ、好結果に終わりました。これからも継続すると同時に、さらなる発展を促していければと思います。
また、2013年度は、各種イベントに人材面でも協力できるように努めていきます。



全労済アシスト(株)
総務部 人事課
社会貢献係長
前田祐二

保障のことなら

全労済

全国労働者共済生活協同組合連合会

全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしをめざしています。出資金をお支払いいただいて組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。

〒151-8571 東京都渋谷区代々木 2-12-10
ホームページ: <http://www.zenrosai.coop>

全労済グループ

日本再共済連

〒151-8531 東京都渋谷区代々木 2-12-10
全労済会館 3F

全労済協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-11-17
ラウンドクロス新宿 5F

関連事業会社

(株)全労済システムズ

〒192-0363 東京都八王子市別所 2-39-1
全労済情報センター 4F

(株)全労済ウィック

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-27-5
代々木市川ビル 2F

(株)スペース・ゼロ

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-12-10
全労済会館内

(株)全労済リブス

〒183-0055 東京都府中市府中町 1-9
京王府中 1 丁目ビル 5F

全労済アシスト(株)

〒564-0052 大阪府吹田市広芝町 10-28
オーク江坂ビル 3F

(株)ゼスト

〒559-0034 大阪府大阪市住之江区南港北
1-24-33 ヴィーコスZERO 4F

